

BCP 策定 (災害などの緊急事態における企業や団体の事業継続計画)

HTT 電力を **①へらす** **②つくる** **③ためる**

災害 モバイル充電ステーション

Luminaguard

ルミナガード

消火器

FIRE EXTINGUISHER

使用法 DIRECTIONS 普通 油 電気火災 (A.B.C. 火災全般)



命をつなぐ充電ステーション
未来の防災拠点



多端末対応充電



バッテリー内蔵



停電時照明



1台でスマートフォン25台分が充電可能

4台あれば、100人分の充電ライフライン確保に貢献



無接点充電機能

置くだけで充電できる
ワイヤレス充電を装備



バッテリー残量表示

停電時でも一目でわかる
バッテリー残量表示



USB 充電コネクタ

USB Type-A : 3つ
USB Type-C : 2つ

災害時にライフラインを守る。 行政と民間の新しい協力体制の形。

災害時帰宅支援ステーションの重要性

日本は地震や台風などの自然災害が頻繁に発生する「災害大国」です。災害時は、ライフラインの確保が大きな課題となります。そのため、災害時にはコンビニエンスストア、鉄道駅、公共施設などが「災害時帰宅支援ステーション」としての役割を果たします。これらの施設では、水の提供、トイレの貸し出し、帰宅支援のための地図情報の提供などが行われ、被災者の安全な帰宅を支援します。

ライフラインの確保が課題

災害時、多くの人々が一斉に連絡を取ろうとするため、電話やインターネットが繋がりにくい状況となります。災害発生時には、災害用 Wi-Fi 「00000JAPAN」(ファイブゼロジャパン) が使用可能となります。回線が混乱している状況でも、SNS、LINE、メールなどの安否確認や連絡手段がこれにより確保されます。この災害用 Wi-Fi が利用できるコンビニ周辺、鉄道駅、公共施設は重要な防災拠点となります。

充電ステーションの圧倒的不足

通信ライフラインは、災害用 Wi-Fi 「00000JAPAN」により確保されます。しかし、圧倒的に不足となるのがスマホの充電ステーションです。もっとも重要なスマホの電源確保がなければ「安否確認、連絡、情報収集」が行えません。災害避難場所ではスマホ充電待ちの大行列が発生しています。そこで行政と民間企業が協力して街中に「災害モバイル充電ステーション」の設置を提案いたします。



サイズ	295×300×830(mm)
重量	約 7.8kg
電源方式	バッテリー内蔵 + AC 給電
電池容量	256Wh (12.8V 20AH リン酸鉄リチウムイオン電池)
エッジライト点灯	停電時も点灯可能
USB 充電ポート	5USB ポート + 無接点充電機能搭載
メンテナンス頻度	バッテリー交換(約 5 年)



解説動画

正規販売代理店

RAY GEARS

レイギアーズ合同会社

〒273-0005 千葉県船橋市本町 7-4-15-4F

TEL: 047-429-8055 FAX: 047-429-8056

URL: <http://www.search-light.jp>



お問合せ